

書くこと

5 第一学年

伝えたい事柄について、根拠を明確にして書くことができる。(第五・六学年 思判表 B(1)E)

(3) 村上さんが作成した「紹介文」の [] に文章を入れて「紹介文」を完成させなさい。ただし、次の条件1～4に従って書くこと。

条件1 二文で構成すること。

条件2 一文目は、「私が調べた『資料』によると、」に続けて、

『資料』が示している情報を明らかにすること。

条件3 二文目は、条件2で取り上げた内容から分かることを書くこと。

条件4 六十文字以上、九十文字以内で書くこと。

(句読点も一字と数える。ただし、書き出しの言葉は字数に含まない。)

<正答例> Tシャツの素材が、ポリエステル100%の場合は40分、綿100%の場合は85分で乾いています。この試験の結果から、綿素材よりポリエステル素材の方が速く乾くということが分かります。

<誤答の傾向>

・「・・・そのことから、ポリエステルは生地が薄く、夏でも涼しく過ごせると思います。」

➡ 資料から読み取れないこと(生地が薄い等)を記述している。

・「衣類の速乾性に関する試験結果では、ポリエステルだと100%乾くの約40分かかりますが、綿だと100%乾くの約85分もの時間がかかります。・・・」

➡ 資料から情報を適切に取り出せていない。

・「・・・それに比べてポリエステル100%は40分で乾くので、ポリエステル素材のTシャツを選びます。」

➡ 目的に応じた記述ができていない。(条件3を満たしていない。 [] に入るように記述できていない。)

ポイント

目的に応じて必要な内容を整理して書くことに課題がみられました。「書くこと」の指導にあたっては、学習指導要領に新設された「情報の扱い方に関する事項」を適切に関連させて指導することが効果的です。「目的や課題に応じて、必要な情報(言葉、数値、理由等)を取り出す活動」「取り出した情報を整理・比較・分析する活動」「与えられた条件に合わせて情報の示し方を考える活動」といった、情報を扱う活動を書くことの学習過程に重点的に取り入れ、単元を構想してみましよう。

チャレンジ確認シート
R1③2 H28A④2
H27A④1

正答率 44.7%
無解答率 10.0%

チェック

1年光村図書 p.34 p.138
1年東京書籍 p.70 p.107



読むこと(文学的な文章)

3 第一学年

表現の仕方に着目して、その表現を用いた意図を捉えることができる。(第二学年 思判表 C(1)E)

(3) ~~~~~線部「崇高な儀式」とありますが、この言葉を使った意図として最も適切なものを、次の1～4の中から一つ選び、その番号を書きなさい。

1 キヤップさえ外せば、いつでも忠実に働く万年筆を、私は

便利な道具であるという印象で捉えており、その便利な万年

筆のインクを補充する高揚感にあふれた過程を表現するため。

2 スイス製であり、インクを仕入れるのにも大変な万年筆を、

私は高級な道具であるという印象で捉えており、その高級な万

年筆のインクを補充する緊張感にあふれた過程を表現するため。

3 全てのものに言葉という形を与えられる万年筆を、私は神

聖な道具であるという印象で捉えており、その神聖な万年筆

のインクを補充する緊張感にあふれた過程を表現するため。

4 何も考えずとも、書くことが途切れない万年筆を、私は特

別な道具であるという印象で捉えており、その特別な万年筆

のインクを補充する高揚感にあふれた過程を表現するため。

ポイント

文学的な文章においても、説明的な文章と同様、叙述をもとにして内容を解釈します。文学的な文章では、作者の伝えたいことや登場人物の心情が、直接的(「嬉しい」等)、もしくは間接的に表現されていますが、中学校段階で取り扱う作品では、複雑な感情等を印象的に伝えるために、「間接表現」が多用されます。

「間接表現」とは、作者の思いを読者に仲介している言葉や事柄であり、その表現を見つけ、その表現が伝えようとする、あえて言葉として示さなかった熱い思いを探ることが、文学的な文章を扱った授業では必要ということになります。本設問においては、「崇高な儀式」という言葉がそれに当たります。

「学習指導要領解説」では、「読むことE」の指導について、「描写の仕方や比喩をはじめとした表現の技法などに着目すること」と記していますが、「間接表現=仲介する言葉・事柄」には、象徴(例:「光」を何かの象徴にする)や、表情、態度、行動、会話、情景の描写等が多くみられ、まさしく解説の示す部分となります。

国語の授業では、「言葉による見方・考え方」を働かせることが示され、これは、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉えたり問い直したりすることを表しています。今回で言えば、「崇高・儀式」といった言葉を用いた意図を探っていく授業を展開することは、まさしく「言葉による見方・考え方」を働かせた授業ということになります。

「間接表現」に着目すること、言葉にこだわり、その言葉を用いた意図や理由を問うことを意識し、授業を構想してみてください。

チャレンジ確認シート
H29B①1 H27A③3

マスター問題集
中2 ⑪・⑫

正答率 37.2%
無解答率 1.3%

➡正答率3
誤答の傾向
「4」を選んでいる誤答が多くみられました。



第一学年

小学校で学習した漢字を読むことができる。
〔第一学年 知技（1）言葉の事項イ〕

(1) 次の①、②の1〜4の中からそれぞれ一つ選び、その番号を書きなさい。

① 自省

正答率 34.0%
無解答率 0.2%

〔誤答の傾向〕
「1」を選んでいる誤答が多くみられました。

チャレンジ確認シート
中1：H24A⑦8(1)

マスター問題集
中1：① 中2：③

ポイント

第一学年で、最も正答率の低い問題となりました。例えば「反省」という言葉が出題されていれば正答率が上がったと予想され、「自省」という言葉を獲得できていない状況が見てとれます。学習指導要領では、語彙を「全ての教科等における資質・能力の育成や学習の基盤となる言語能力を支える重要な要素」と位置づけており、全学年にわたって語彙指導の改善・充実が求められています。教科書教材で学習する中で、新出漢字、新出音訓、注意する語句等が示された場合は、意味調べを行うだけでなく、「反省、自省」のように同じ読みをする他の語句や、類義語、対義語、関連語句を調べる活動を取り入れることが重要です。なぜなら、「語彙」とは、語句を集合体として捉えた言葉であり、**語彙の獲得には、その言葉単体ではなく、言葉を具体化・系統化して獲得させることが重要**だからです。また、意識的に活用（書く・話す）させる活動を取り入れることが大事なのは、言うまでもありません。

4 ③ 2 1
宣 星 税 1
伝 座 金 消
化

第二学年

文を単語に分けることができる。
〔第二学年 知技（1）言葉の事項オ〕

1 (3) 次の文を単語に分けたとき、その分け方として正しいものを、あとの1〜4の中から一つ選び、その番号を書きなさい。

正答率 9.5%
無解答率 0.3%

雪が降っていた。



〔正答〕4
〔誤答の傾向〕
「1」を選んでいる誤答が多くみられました。

4 3 2 1
雪 雪 雪 雪
が が が が
降 降 降 降
っ っ っ っ
て て て て
い い い い
た た た た

ポイント

第二学年で、最も正答率の低い問題となりました。文法は、生徒にとって苦手意識の強い学習内容です。文法指導を「日本語のきまりを学ぶ＝知識注入型授業」から、「既に使いこなしているきまりを、生徒が見える化する、発見する」授業へと転換させていくことを心がけましょう。

新しい学習指導要領のもとでの授業づくり
－国語科を再認識しましょう－



国語科の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成することを目指す。

☆「言葉による見方・考え方を働かせる」

- ・対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりすること。

例：順序性について考える。
→示された事例の順序について、筆者の意図とその効果を考える 等。

例：言葉同士を比較する。
→「走る」を「歩く」に変えると、どう印象が変わるかを考える 等。

例：言葉を分類する。
→パンフレットや案内文等に用いる言葉を、相手と状況に応じて分類する 等。

指導事項を指導する手段であり、授業改善（深い学び）の鍵である。

☆「国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成する」

- ・国語科は、国語で理解し表現する言語能力を育成する教科である。
- ・「指導事項」に表されている。

国語科は、言語活動を通して指導事項（言語能力）を指導する教科である。

- (1) 体験から感じ取ったことを表現する
- (2) 事実を正確に理解し伝達する
- (3) 概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする
- (4) 情報を分析・評価し、論述する
- (5) 課題について、構想を立て実践し、評価・改善する
- (6) 互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる



国語科が「どのような資質・能力を育成する教科」なのか、生徒が「どのような姿」になれば、「その「資質・能力を身に付けられたと言えるのか」を、今一度しっかりと考えてみましょう。また、言語活動の中で「資質・能力」を活用させ、「生きて働く力」となるよう指導しましょう。